

「市民こそと真ん中」と相容れない市長の政治姿勢を批判 日本共産党議員団を代表して平良木議員が12議案に反対の討論

9月議会は30日が最終日。この日は決算等の審査をした常任委員会の委員長報告の後、討論、採決が行われました。提出された議案はすべて全会一致か賛成多数で可決しました。

日本共産党議員団は平成24年度一般会計歳入歳出決算認定など12議案に反対しました。反対の議案がいつもより多くなったのは職員給与削減関連議案が多かったことによります。

平成24年度一般会計決算認定についての討論で平良木議員(写真)は、「昨年春の予算審議の際に、私たちは、子ども医療費助成の拡充、住宅リフォーム助成制度の継続、保育料の値下げといった積極的な点を評価すると同時に、一方で、『市民こそと真ん中』という公約とは、相容れない市長の政治姿勢について、問題点を指摘した。その指摘が、当を得ていたものであることが、今あらためて明らかになった」とのべました。具体的には、産業建設グループの集約などにより、地域住民の暮らしを確実に支え、身近で顔の見える行政サービスを遂行していく上で欠かせない総合事務所の充実に背を向けたこと、(仮称)厚生産業会館の建設問題では、高



田区地域協議会の反対の答申にもかかわらず、建設ありきの姿勢を続けていることなどを指摘しました。

一般職の職員給与に関する条例等の一部改正(いわゆる職

員給与削減条例)について平良木議員は、まづ国のやり方を批判、「国は、人件費の削減分に相当するものとして、総額5億円を超える交付税を削減してきた。これは、地方交付税が、すべての自治体に一定水準の財源を保障する見地から、国が代わりに徴収して再分配するという自治体にとっての固有財源であり、国の恣意的な裁量で増減できるものではないという原則に反する不当なやり方だ。それを、たまたま国が分配権を握っていることから、自治体に対して、要請の名のもとで、人件費の削減を強要する手段に使うという、このやり口は、とうてい許されるものではない」とのべました。

そのうえで、「国のこうした要請に対しては、結果として国の言いなりになってしまうような給与削減はやめるべき。最後まで毅然とした態度を貫け」「3億円を超える給与削減は、地域経済に重大な影響を与える。また、この削減提案は、新潟県や新潟市など、県内の多くの自治体がまだ提案をしていない中での提案であり、しかも、市職員組合との間ではいまだ合意にいたっていない」とのべ反対しました。

(仮称) 厚生産業会館の基本設計は2362万円で石本建築に委託

上越市は株式会社石本建築事務所と(仮称)厚生産業会館の基本設計委託契約を9月20日に締結しました。これは30日の建設企業常任委員会で明らかにされました。

契約額は2362万5000円(消費税込み)。市は、同会館の基本設計業務委託の受託者選定にあたり、公募型プロポーザル方式により技術提案書を求め、(仮称)厚生産業会館基



本設計業務委託公募型プロポーザル審査委員会(委員長 樋口秀長岡技術科学大学准教授)により審査を行ってきました。地元の高田区地域協議会などの反対を無視した推進の動きはここまですました。上の写真は石本建築事務所が提出した技術提案書の一部です。

総務委、空き家対策の条例検討へ

総務常任委員会は26日会議を開き、空き家等の適正管理に関する条例の検討に入ることを決めました。

同委員会では、これまで市内の老朽危険空き家の視察を行い現状・実態把握に努めるとともに先進自治体の視察や所管事務調査を行ってきました。9月定例会においては、老朽危険空き家除却促進事業について当初予定していた件数を上回る申請が見込まれることから、補正予算案が提案され、可決されています。

委員会ではこれまでの経緯を踏まえ、議論した結果、条例が必要との結論に達したものです。



【タイリンヤマハッカ】漢字で「大輪山薄荷」と書きます。シソ科。花は青紫色です。牧区上牧の「八方の風穴」近くでこの花の群落を見つけました。牧区の牧峠から飯山に抜ける道沿いは野の花ロードでした。(1日、撮影)

おや、こんなことまで憶えていたのか。二〇数年ぶりに稲を刈り、稲束をまるけたときでした。時計回りと反対にくるつとまわしてワラでくくったあと、不ぞろいだった稲束の根の部分を右手の内側でポンポンとたたいていたんです。

稲束の根の部分がそろい、きれいになった姿を見て、私はびっくりしたというか、うれしくなりました。稲束がきれいになったことでもあります、何よりも右手が無意識のうちに動いて、ポンポンとやっていたことに感動したのです。

考えてみれば、尾神にあった田んぼで稲刈り鎌を最後に持ったのは二年や三年前ではありません。昭和六〇年代の半ば頃です、少なくとも二三年は経っています。この間、稲を刈ったこともなければ、稲束をまるけたこともないのです。稲刈りや稲まるけの仕方を忘れてしまったとしても不思議ではないのです。でも、私の体が憶えていてくれました。

私が二〇数年ぶりに稲刈りをするようになった日は突然やってきました。先週の金曜日、私は浦川原から安塚を通って大島へと車を走らせていました。保倉川沿いの道を上流方向に進み、仁上を通り過ぎようとした時です。左前方の田んぼのそばに大勢の子どもたちの姿が見えたのです。「これは稲刈り体験だな」と思い、車をとめました。稲刈りをしている子どもたちの写真を撮りたいと思っていた私にとってはグッドタイミング、絶好の機会でした。

車から降りて田んぼのそばへ行くと、学校の先生、稲刈りを指導する地元の農家の方の説明が行われている最中でした。話を聴いていたのは東京都多摩市から越後田舎体験でやってきた生徒、二〇人ほどです。これから体験する稲刈りをやるうえで大事なことを聴きもらすまいと真剣な表情をしていました。耳を傾けますと、「くれぐれも指を切らないように」という言葉が聞こえてきました。

稲刈りが始まってから、すぐに何枚かの写真を撮りました。被写体である生徒たちの中には稲刈り鎌をノコギリのように押ししたり、引いたりして使っている生徒がいます。何よりも刈った稲をまるけるのにみんなが苦勞していました。もうじつとしていられませんでした。学校の先生に頼んで仲間に入れてもらうことにしました。

そばにいた「庄屋の家」の武田さんに「長靴あるよ」と勧められたのですが、私が履いていたのは安い運動靴です、そのまま田んぼに入りました。鎌を右手に持ち稲を刈ると、ザツ、ザツ、ザツといい音がします。「おお、この感じ、この感じ：」鎌の使い方も刈った稲の置き方も体がちゃんと憶えていてくれました。

まるけると、右手人差し指をのびし、稲束をぐるりと一回転させくります。そのあと、ポンポンとやって、畔元へ投げました。その様子を見ていた女子生徒と男の先生が「どうすればいいのか」と訊いてきました。まったく初めての人には稲まるけは難しいようで、なかなか覚えてもらえません。何度か繰り返しているうちに、一人の生徒がようやくできるようになりました。そして、生徒よりかなり時間がかかりましたが、先生もうまくいきました。

この日は秋晴れ、青い空が広がっていました。田んぼのあちこちで生徒の歓声が上がり、教えているお母さん、お父さんたちの笑顔も見えました。学校の生徒も先生も、できなかったことができるようになって、とてもうれしそうな表情です。かくいう私も思いがけないところで「昔取った杵柄（きねづか）」が役立ち、満足でした。

日本共産党上越地区委員会は30日、これまでの村山市政の評価と今月20日告示の市長選についての態度を表明しました。

この中で、村山市政は一部で市民生活の向上に資する若干の改善・前進はあるものの、総じて「合併後10年目以降の交付税一本算定に基づく

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	9月25日(水)	10月2日(水)
上越南消防署	0.033	0.030
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.046	0.043
頸南消防署	0.057	0.040
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.043

財政の逼迫」などを理由とした「行財政改革」の推進を強く打ち出し、市民の暮らし、福祉、安全、安心を切り詰め後退させるものとなっていると評価。特に、合併時に市民に約束した地域自治区と地域協議会を基本とした地域自治機能を縮小させたことは重大だとしています。産業建設グループの集約や地域事業費枠の撤廃はその典型的なものです。また、(仮称)厚生産業会館建設基本構想案についての地元地域協議会の答申を無視したことは市民を軽視する重大な問題だと批判しています。

市政に大きな影響を及ぼす国政に関する問題でも、消費税増税や原発再稼働、TPP交渉参加などの問題で、国民・市民の願いに全く応えようとしてこなかったとのべています。

こうしたなかで、多くの市民の皆さんから、日本共産党に対して、「明確な対立軸を持って、村山市政の転換を目

指し、市民の立場に立った市長候補の擁立を」と大きな期待を寄せていただいたことを紹介しています。

しかし、日本共産党上越地区委員会は、こうした市民の声に応えようと、これまで必死の努力をしてきたものの、最終的に条件を満たす候補者を見いだせなかったことなどにより、候補擁立を断念せざるを得ないという結論に達したことを明らかにしました。残念です。

党議員団では、市民の皆さんの願い実現のために引き続き全力を上げてまいりますのでよろしくお願いいたします。



私が30年ほど前に吉川区尾神の田んぼで使っていたヤンマーの湿田用バインダーと同機種ものが牧区上牧で使われていてびっくりし、うれしくなりました。1日、撮影。